



金のがちょうのほん

レスリー・ブルック 文・画

瀬田 貞二 松瀬 七織 訳

福音館書店 1980年 1890円

100ページ 26×20cm

“ぬけ作”と呼ばれている末息子が金のがちょうを手に入れて、小人の助けを借りながら王さまの難問を解き、お姫さまと結婚する「金のがちょう」、他「三びきのくま」「三びきのこぶた」「親ゆびトム」四編のイギリスの昔話が収録されています。特に「三びきのこぶた」は、話の流れを省略せずに、オオカミが煙突から落ちてくる場面まできちんと語られているところに注目して下さい。

挿絵は線画とカラーが交互に入り、古典的な雰囲気でも細部まで丁寧に描かれながらも、あちらこちらに作者の遊び心が感じられます。挿絵の隅々まで理解し、お話を楽しむためには、小学校中学年からが良いでしょう。



くまのコールテンくん

ドン・フリーマン さく

まつおか きょうこ やく

偕成社 1975年 1260円

30ページ 23×25cm

コールテンくんは、デパートのおもちゃ売り場で、自分を家に連れて行ってくれる人が来るのを待っていました。

ある日、一人の黒人の女の子（リサ）がコールテンくんを見つめます。「あたし、ずっとまえからこんなくまがほしかったの」けれどもお母さんは、ズボンのボタンが取れているから、とコールテンくんを買ってくれませんでした。そこでコールテンくんはボタンを探しに、夜のデパートを調べ始めます。初めて見るエスカレーターや大きなベッドに驚くコールテンくんの無邪気な様子や、ボタンがないままの彼を迎えに来るリサの愛情が、こまやかな絵柄で描かれています。

